

授業改善

【本校が3年間で目指した授業】

教科等横断的な視点に立った資質・能力をはぐくむ学習づくり

このような取組が効果的だった！

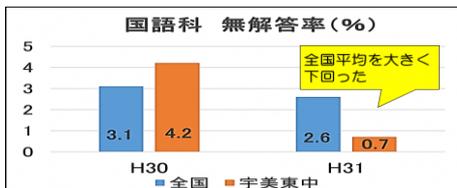
《取組1》全教科における『すべての生徒が書いて伝える宇美東中スタイル』の実践

- 生徒の思考を促す「書き進めやすいノート」の工夫
- 考えるための技法を取り入れた「めあて」と教科の見方・考え方が入った「学習課題」の工夫
- 「伝える活動」の効果的な位置付け
- 生徒とつくる内容の「見通し」

(成果) 平成31年度全国学力・学習状況調査において、同一生徒集団の標準化得点の伸びや無解答率の減少という形で現れている。また、生徒質問紙「自分にはよいところがあると思いませんか」の項目においても、「あてはまる」と答えた生徒が全国平均を大きく上回り、生徒の自尊感情の高まりもみられた。



【生徒の思考を促す書き進めやすいノート】



【H31全国学力・学習状況調査 国語科無解答率】

《取組2》生徒の学びに変化をもたらすカリキュラムの構築

- 重点目標の資質・能力を横断的にはぐくむ特別活動と総合的な学習の時間を中軸に据えたカリキュラム
- 全ての教科等における資質・能力の基盤である言語能力をはぐくむ重点単元を、全教科・領域に意図的に配列したカリキュラム

(成果) 特別活動と総合的な学習の時間を中軸に様々な学びが関連付くようにカリキュラムを編成したことで、生徒の資質・能力の育ちがうかがえた。また、学習の基盤である「言語能力の育成」を教科等横断的な視点で行った結果、生徒は話したり書いたりすることに抵抗なく取り組むことができるようになった。

「伝える活動」教科カリキュラム (1年生)

教科	4月		5月		6月		7月		8月		10月	
	単元	内容										
国語	国語の基礎											
英語	英語の基礎											
数学	数学の基礎											
理科	理科の基礎											
社会	社会の基礎											
総合的な学習の時間												
特別活動												

【言語能力をはぐくむ「伝える活動」教科カリキュラム】

学習の基盤となる「言語能力」を全ての教科で重点的に育成する単元配列

【考察】質的向上につながった本校の授業改善について

- 学習指導要領を根拠に、どのような「見方・考え方」を働かせるのか、「考えるための技法」は何を使うのか、どのようにすれば生徒が効率的に書き進めていくことができるかを研究の中心にすることで、教師が教科の本質を大切に授業改善を行うことができた。
- 全教科等横断的に「伝える活動」を取り入れたことは、生徒にとって自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりして自分の考えを練り直す手立てとして有効だった。
- 全ての教科等における資質・能力の基盤である言語能力を国語科を要としつつ教育課程全体で取り組んできたことにより、生徒が普段の生活の中はもちろんのこと、他教科でも話したり聞いたり書いたりすることに抵抗なく取り組むようになった。

マネジメント

【本校が3年間で確立したマネジメント】

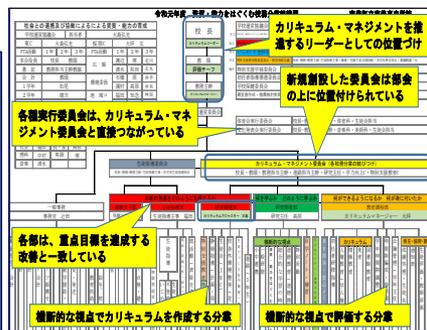
学びに変化をもたらす教育課程と校内組織の結び付け

このような取組が効果的だった！

《取組1》重点目標が全職員に行き渡る校内組織の再編

- ① 校長が、生徒の実態把握に基づく重点目標「宇美東中学学習ビジョン」と目標値を設定
- ② 校長が、重点目標が全ての教育活動とつながり連動するように校内組織を再編
- ③ 校長が、校務分掌組織の中核に、重点目標の効果的な浸透を図る「カリキュラム・マネジメント委員会」を設置

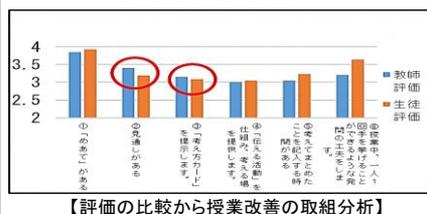
(成果) 重点目標に向かって組織が連動するとともに、教員一人一人の授業改善に対する姿勢が受動的なものから能動的なものへと変容し、生徒の学びにも「宇美東中学学習ビジョン」に示す生徒の姿が見られるようになった。



《取組2》重点目標を基に質問項目を統一した生徒評価と教師評価

- ① 教務担当主幹教諭が、カリキュラム・マネジメントと学校評価を関連付けた学校評価計画の作成
- ② 教務担当主幹教諭が、重点目標を基に質問項目を統一した生徒評価と教員評価を定期的実施
- ③ 研究推進委員会で、双方の評価結果を関連付けながら分析し、授業改善の取組の重点を設定
- ④ 各教員が授業改善WEEKで重点に沿って実践、カリキュラム・マネジメント委員会構成員が重点達成の見届け

(成果) 生徒が行う教育活動・教育課程の評価と教師が行う教育活動・教育課程の実施状況調査の項目を一致させることで、日々の授業の課題から取組の重点を明らかにし授業改善に生かすことができた。



【評価の比較から授業改善の取組分析】

【考察】効果につながった本校のマネジメントについて

- どのようにするのかという「共通実践」ではなく、どのような生徒を育てるかという「共通理解」が新たな教育活動を創造していく発想法であることがわかった。
- 教科等横断的なカリキュラムを構成する際には、「総合的な学習の時間」が主役になる必要がある。総合的な学習の時間の在り方を再検討することからカリキュラム・マネジメントを始めることが大切であることがわかった。
- これまで、教師が指導する、あるいは教育活動で指導するという意識が強かったが、教育課程をとらえて指導するという教師の意識改革を行うことにより、意欲的に学習に参加できるようになるなど生徒の学びに変化をもたらすことがわかった。